



西宮北口、発掘物語。

西宮市立郷土資料館 第17回特別展  
2002.8.3 → 9.15

## はじめに

阪急西宮北口駅周辺は、標高4～6mの低平な沖積平野上に、駅や商業ビル、アパートなどが密集する街区として、早くから開発されてきた場所である。

この地で最初に発見された遺跡は甲風園遺跡で、昭和41年8月、甲風園1丁目において商業ビルが建設された時に弥生土器が採集され遺跡として知られるところとなった。弥生時代前期および中期の土器が23点あり、当地に弥生時代の遺跡の存在することが明らかになった。その後、周辺の開発事業について、発掘調査・工事立会調査が実施されてきたが、一部で瓦器片などが確認されたにとどまり、遺跡の内容については不明なままであった。

阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に先立つ発掘調査が兵庫県教育委員会・西宮市教育委員会により多数実施され、高畑町遺跡、北口町遺跡、高松町遺跡といった重要な遺跡が発見された。高畑町遺跡は古墳時代・中世の集落遺跡、北口町遺跡は弥生時代・古墳時代の集落遺跡、高松町遺跡は弥生時代の水田遺跡で、当地方の歴史理解に、多くの知見を提供することになった。

特別展では、これら西宮北口駅周辺の遺跡の全容を紹介するとともに、周辺の近年の発掘調査・資料調査の成果を合わせて展示する。

西宮市立郷土資料館

## 甲風園遺跡の発見

阪急西宮北口駅周辺には、長く遺跡があることは知られていなかった。昭和41年に採集された弥生土器は、のち、関西学院大学考古学研究会にもちこまれ、その後『関西学院考古』NO.4(1978年)に掲載されて、考古学研究者に知られるところとなった。「西宮市甲風園採集の弥生式土器」の発見の経過を引用する。

ここで報告する弥生式土器は、昭和41年8月、西宮市甲風園1丁目の増田氏敷地内で採集されたものである。発見の経過については詳細は不明であるが、当地にビルが建設された際、採集されその後当研究会に持ち込まれたものであろう。従来ここには遺跡の存在は知られなく、『西宮市埋蔵文化財遺跡分布地図及び地名表』にも記載されていない。

とされている。

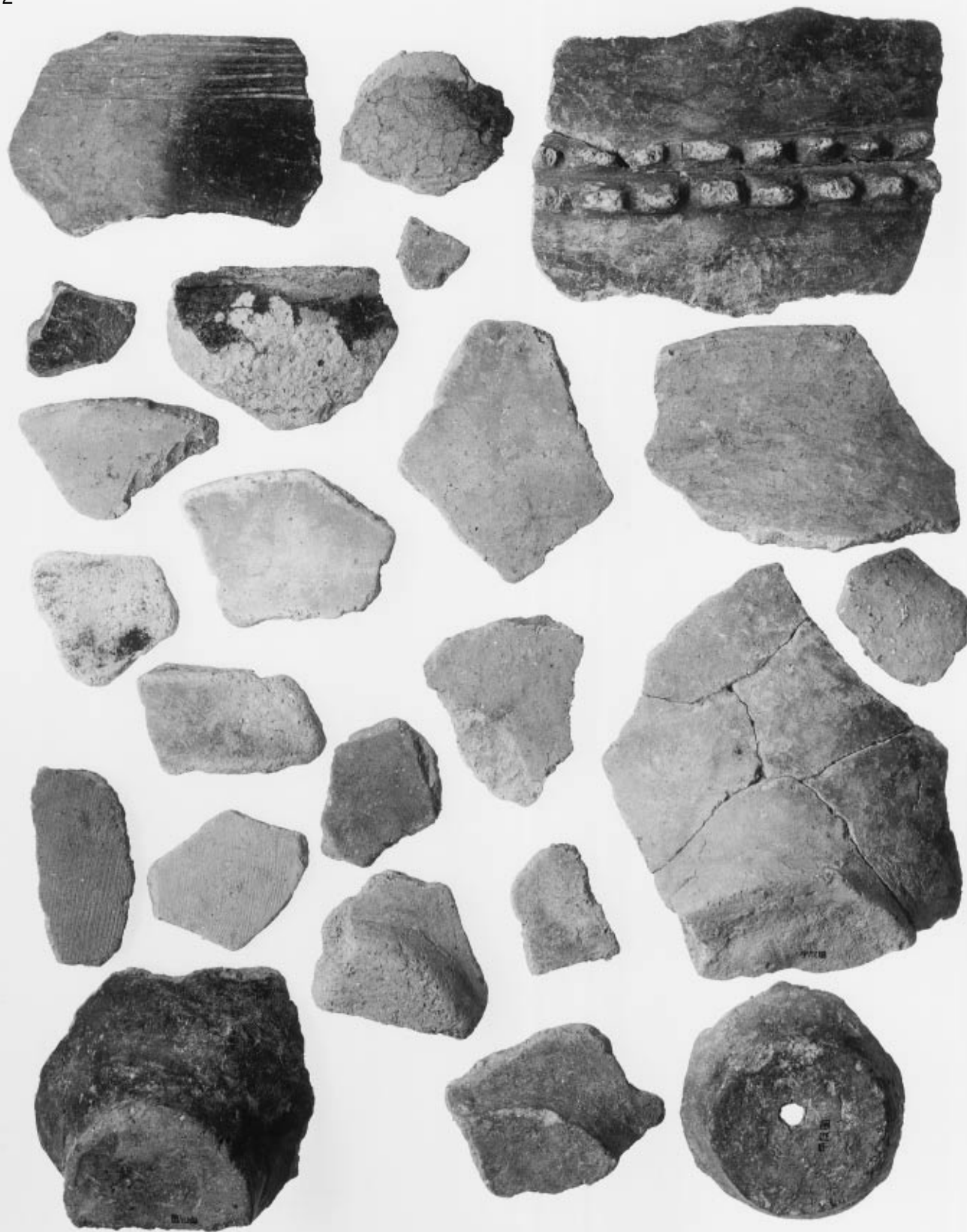
採集・報告された弥生土器は前期・中期のものがある。報文では特に前期弥生土器に注目して、つぎのように結んでいる。

出土状況が不明のため遺跡の性格等については論究できない。しかし、遺物の多くが摩滅していないことから、当地に弥生時代前期から中期にかけての遺跡が存在したことが知れる。とくにここで注目されるのは、西摂地域において武庫川西岸に従来未発見であった弥生時代前期の遺跡が確認されたことである。西摂の地域に最初に成立した上ノ島遺跡と六甲山系西端の播磨吉田遺跡との空白を埋める資料としてとらえられよう。また、六甲山系東麓に点在する弥生時代中期の遺跡との関連においても新たな問題を提起するものであろう。

当時、尼崎市田能遺跡や上ノ島遺跡で明らかになった弥生時代前期の遺跡は、西宮市以西の摂津地域では未発見であったことをうけ、甲風園遺跡を重要な遺跡としてとらえるよう注意をうながしている。その後、西宮市越水山遺跡、芦屋市寺田遺跡、神戸市東灘区北青木遺跡など、前期の遺跡がつぎつぎと明らかになってきた。また、本展で紹介している津門稲荷町遺跡では前期弥生土器が、北口町遺跡では集落を囲む環壕とされる大規模な溝や多数の前期弥生土器が検出され、武庫川西岸の低地部に、弥生時代前期の遺跡が多数存在することが明らかになってきた。



甲風園遺跡が紹介された『関西学院考古』第4号



甲風園遺跡で採集された前期弥生土器\*\*

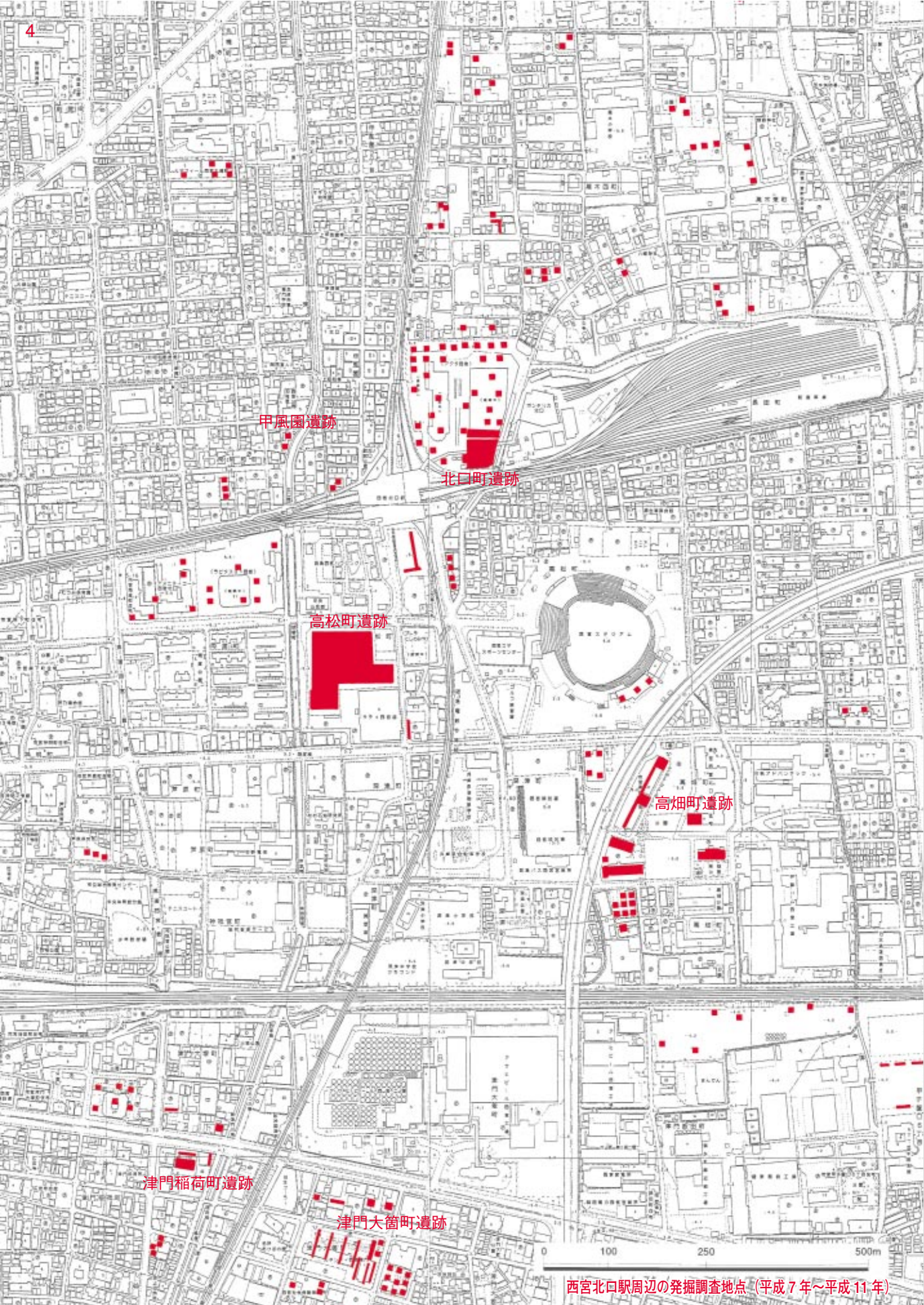


西宮北口駅周辺航空写真（1949年撮影）

## 阪急西宮北口駅周辺の再開発と 埋蔵文化財の発掘調査

阪急西宮北口駅周辺では、阪神・淡路大震災の復旧・復興を機に、多くの開発事業が計画・実施されてきた。高畑町では、兵庫県営西宮北口（2期）住宅建設事業、兵庫県警察本部西宮待機宿舎新築工事、住宅・都市整備公団西宮高畑町団地建設工事、西宮市営高畑町団地従前居住者用住宅建築工事、葬祭所、その他共同住宅などに先だって発掘調査が実施された。北口町では、西宮北口駅北東震災復興土地区画整理事業、阪神間都市計画事業西宮北口駅北東地区震災復興第二種市街地再開発事業など、大型事業が集中した。高松町遺跡では、西宮北口南西第一地区市街地再開発、西宮北口南土地区画整理事業、兵庫県芸術文化センター（仮称）建設事業が実施されていく。

そのような中であって、平成7年6月28日に、県営住宅建設工事現場で高畑町遺跡が発見された。西宮北口駅の1km東南、かつて、阪急西宮球場第2グラウンドがあった場所である。それまで、本駅周辺では、先述の甲風園遺跡における採集遺物が知られるのみであったが、一般には遺跡が存在するとは考えられていない市街地の下に、古墳時代の集落跡が存在する可能性がきわめて高くなったのである。



西宮北口駅周辺の発掘調査地点（平成7年～平成11年）

## 高畑町遺跡

平成7年6月27日・7月3日、兵庫県教育委員会の埋蔵文化財担当者が、阪神・淡路大震災からの復興事業として、工事中の兵庫県営西宮北口（2期）住宅建設事業を現地検認した結果、遺物包含層の残存を確認したため、同年7月10日から14日まで本発掘調査が実施された。この調査が、高畑町遺跡における最初の発掘調査となった。その後、西宮市教育委員会、兵庫県教育委員会によって発掘調査が実施され、おもに古墳時代と中世の集落遺跡であることが判明してきた。震災復興事業に伴う本遺跡の最後の比較的規模の大きい発掘調査成果をまとめた発掘調査報告書『高畑町遺跡（Ⅲ）』で発掘調査担当者は、つぎのように述懐している。

高畑町遺跡は、震災復興事業に伴う調査がきっかけで明らかとなった。市街地における調査が増えた近年、アスファルトの下に埋蔵文化財が眠り続けていた事例も珍しくはない。とはいえ、震災に伴う復興事業のなかで目覚めたこの遺跡は、事業者・埋蔵文化財保護行政の担当者に少なからぬ衝撃を与えた。

高畑町遺跡の大規模な発掘調査は、調査次数4次、面積3344㎡にわたって実施された。兵庫県教育委員会の発掘調査をⅠ～Ⅲ、本市教育委員会の調査をⅣとして、その概要を記す。

### 高畑町遺跡（Ⅰ）

平成7年7月10日～7月14日、県営西宮北口（2期）住宅建設事業に伴って、300㎡の発掘調査が実施された。調査では、弥生時代から古墳時代の堆積だけが対象となったが、時期不明の杭列と、土器溜まりが検出された。微高地の縁辺部に堆積した遺物包含層からは、多数の土器が出土した。遺物包含層は3層に分かれ、弥生時代末～古墳時代前期・古墳時代中期・古墳時代後期に堆積したものと考えられる。

### 高畑町遺跡（Ⅱ）

平成8年7月8日～9月6日、兵庫県警察本部西宮待機宿舎新築工事に伴って、面積768㎡の発掘調査が行われた。弥生時代末～古墳時代前期・古墳時代後期・中世の遺構面が検出された。古墳時代初頭の遺構面では、円形竪穴住居跡3棟、遺物を包含する溝、古墳時代後期の遺構面では方形竪穴住居跡12棟が検出された。方形竪穴住居跡のひとつからは、子持勾玉が出土した。中世の遺構は、南北方向の溝、建物、井戸で、井戸から検出された遺物から13世紀を中心に、鎌倉時代から南北朝時代にかけて営まれた集落の跡である。

### 高畑町遺跡（Ⅲ）

平成8年5月13日～6月17日、住宅・都市整備公団西宮高畑町団地建設工事に伴い、面積1364.68㎡の発掘調査が実施された。弥生時代末～古墳時代前期の遺構面では、溝や旧河川、古墳時代後期の遺構面では、一辺70～80cmの方形掘方を持つ掘立柱建物跡・溝・土壌・旧河川、中世の遺構面では、掘立柱建物跡・井戸・溝・土壌などが検出された。

### 高畑町遺跡（Ⅳ）

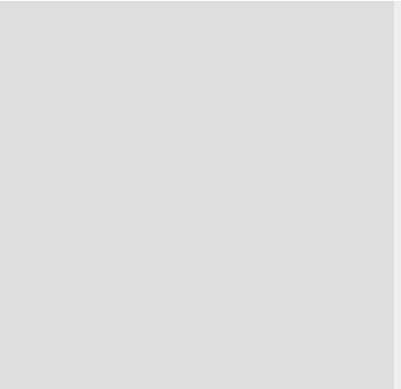
平成8年7月23日～8月9日、西宮市営高畑町団地従前居住者用住宅建築工事に伴い、面積912㎡の発掘調査が実施された。弥生時代後期・古墳時代前期の遺物包含層と、弥生時代後期の遺物包含層上に古墳時代前期の竪穴住居跡2棟などが検出された。



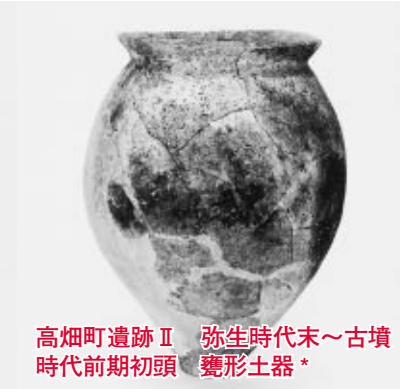
高畑町遺跡Ⅰ 全景\*



高畑町遺跡Ⅰ 弥生時代後期末鉢形土器\*



高畑町遺跡Ⅱ 弥生時代末～古墳時代前期初頭甕形土器\*



高畑町遺跡Ⅱ 弥生時代末～古墳時代前期初頭甕形土器\*



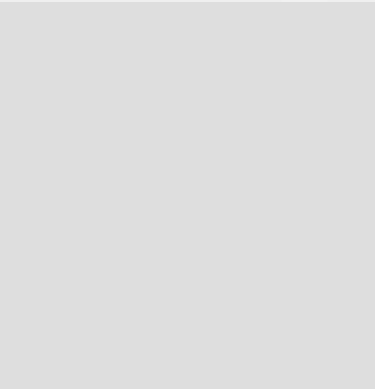
高畑町遺跡Ⅰ 古墳時代土師器高杯形土器\*



高畑町遺跡Ⅰ 遺物出土状況\*



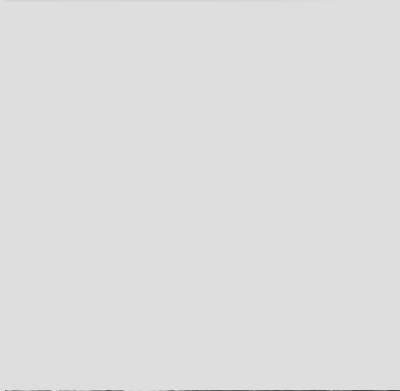
高畑町遺跡Ⅰ 古墳時代中期土師器壺形土器\*



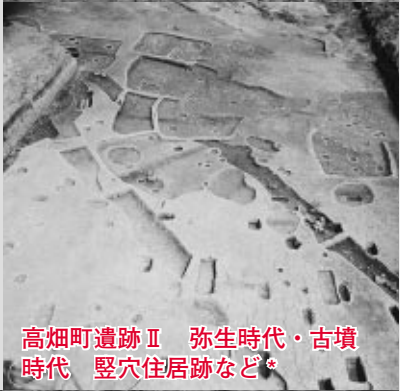
高畑町遺跡Ⅱ 古墳時代子持勾玉\*



高畑町遺跡Ⅱ 古墳時代後期須恵器壺\*



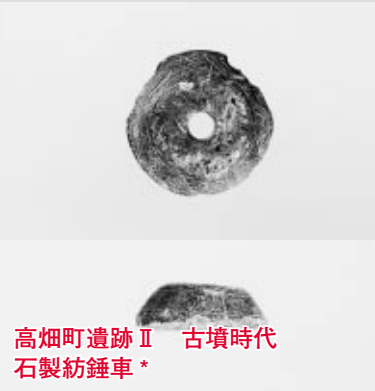
高畑町遺跡Ⅱ 発掘調査風景\*



高畑町遺跡Ⅱ 弥生時代・古墳時代 竪穴住居跡など\*



高畑町遺跡Ⅰ 古墳時代後期須恵器杯蓋\*



高畑町遺跡Ⅱ 古墳時代石製紡錘車\*



高畑町遺跡Ⅱ 古墳時代後期須恵器蓋杯\*



高畑町遺跡Ⅱ 発掘調査風景\*



高畑町遺跡Ⅱ 弥生時代末～古墳時代前期初頭溝跡\*



高畑町遺跡Ⅱ 発掘調査風景\*



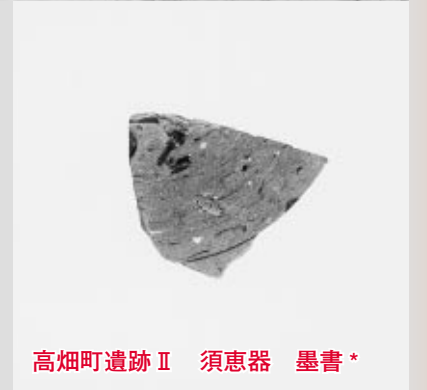
高畑町遺跡 現在の状況



高畑町遺跡Ⅱ 古墳時代～飛鳥時代 合口甕棺墓\*



高畑町遺跡Ⅱ 弥生時代末～古墳時代前期初頭器台形土器\*



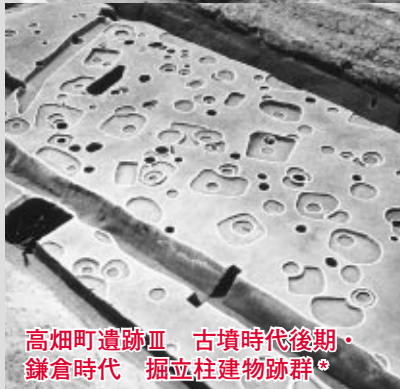
高畑町遺跡Ⅱ 須恵器 墨書\*



高畑町遺跡Ⅱ 鎌倉時代 井戸跡\*



高畑町遺跡Ⅱ 鎌倉時代 瓦器碗\*



高畑町遺跡Ⅲ 古墳時代後期・鎌倉時代 掘立柱建物跡群\*



高畑町遺跡Ⅲ 古墳時代後期 勾玉\*



高畑町遺跡Ⅲ 古墳時代後期 須恵器 蓋杯\*



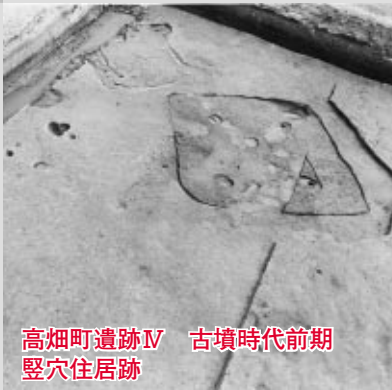
高畑町遺跡Ⅲ 発掘調査風景\*



高畑町遺跡Ⅳ 発掘調査風景



高畑町遺跡Ⅲ 鎌倉時代 井戸跡\*



高畑町遺跡Ⅳ 古墳時代前期 竪穴住居跡



高畑町遺跡Ⅳ 弥生土器出土状況

## 北口町遺跡

平成9年8月27日～平成10年3月12日、阪神間都市計画事業西宮北口駅北東地区震災復興第二種市街地再開発事業が実施されるに先立ち、兵庫県教育委員会が確認調査（いわゆる試掘）を実施したところ、調査範囲の南東部について13世紀を中心とする年代の遺跡が所在することが判明した。この調査によって、北口町の南東部および高木西町の南西部に遺跡の所在することがわかった。また、それに先立つ、平成8年9月17日～20日に西宮北口駅北東震災復興土地区画整理事業実施に伴って、北口町・高木西町・高木東町を対象に、西宮市教育委員会が確認調査を実施した。この範囲の調査では、ほとんど埋蔵文化財を確認することができず、河川・沼等における堆積土層が広く堆積していると考えられた。広域におよぶ確認調査によって、北口町遺跡周辺は、かつては、全体として東・北東に高く、南・南西に低い地形であることがわかり、北口町遺跡は、甲風園遺跡とは旧河川や谷地形によって隔てられた別の遺跡としてとらえられることになった。

北口町遺跡の本発掘調査は、兵庫県教育委員会が平成10年2月19日～3月13日、平成10年7月21日～11月18日の2次にわたって合計3地区を対象におこなった。

A地区では、古墳時代前期の土器が多く出土した溝、鎌倉時代の建物跡が検出された。B地区では、古墳時代前期の重複した方形竪穴住居跡2棟、土壇、その時期の集落の西を限る溝、鎌倉時代の柱穴群などが検出された。C地区では、弥生時代では、前期の溝、後期の竪穴住居跡1棟、古墳時代では、前期の溝・土壇、前期～中期の竪穴住居3棟、掘立柱建物跡2棟、柱穴列、土壇、溝などが検出された。また、鎌倉時代（13世紀ころ）の掘立柱建物跡7棟、井戸2基、土壇、溝などが検出された。

弥生時代前期の土器は、その出土状態から見て編年の基準資料となる良好な一括遺物であって、周辺地域ですでに出土している土器との編年的な検討作業に十分耐える重要な資料群である。弥生時代後期～古墳時代前期・中期においては、竪穴住居跡は、数百年間の間に変遷してゆく竪穴住居の代表的型式を備えており、また、検出された土器群は、弥生時代から古墳時代へと移り変わる時代のもある。いずれも、直近の高畑町遺跡をはじめとする周辺地域との比較によって、さらに存在意義を増すものと思われる。また、集落の北西には溝をはさんで水田が広がっていることも判明した。鎌倉時代には、多数の建物跡が方向をそろえて建てられており、条里型の地割りとの関係が注目される。



北口町遺跡 弥生時代末～古墳時代初 台付小形壺形土器\*



北口町遺跡 発掘調査風景\*



北口町遺跡 弥生時代前期溝跡の土器出土状況\*



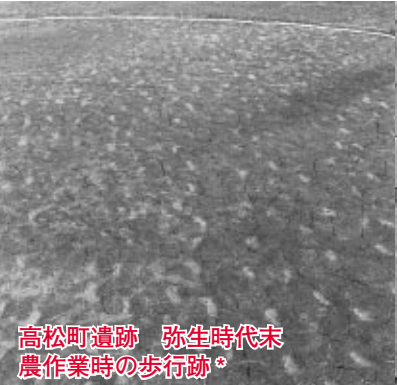
北口町遺跡 発掘調査風景\*



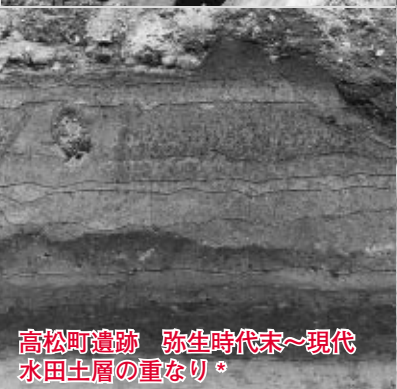
北口町遺跡 弥生時代末～古墳時代初 壺形土器\*



高松町遺跡 弥生時代末 水田跡\*



高松町遺跡 弥生時代末 農作業時の歩行跡\*



高松町遺跡 弥生時代末～現代水田土層の重なり\*



高松町遺跡 平木小学校6年生 児童の足跡発掘\*



高松町遺跡 慶長伏見地震時の噴砂による砂脈と地盤沈下\*



北口町遺跡 竪穴住居跡\*



北口町遺跡 現在の状況



北口町遺跡 弥生時代末～古墳時代初 甕形土器\*



北口町遺跡 弥生時代前期 土器\*



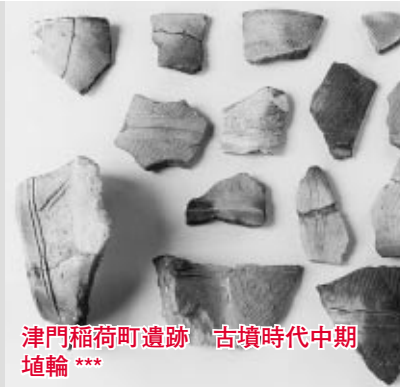
北口町遺跡 弥生時代～現代土層堆積状況\*

## 高松町遺跡

高松町遺跡は、平成11年2月～3月、兵庫県芸術文化センター建設予定地内における、兵庫県教育委員会による埋蔵文化財の試掘調査によって、水田跡が広く遺存していることが明らかになった遺跡である。

一方、同年2月、西宮市教育委員会は、西宮北口駅南西側の、現駅前ロータリー整備に先立って遺跡の有無に関する照会をうけ、試掘調査を実施した。遺物はほとんど検出されなかったが、堆積した土層の観察から周辺に古代～近世にかけての耕作地が広がっていることを確認した。

芸術文化センター建設予定地では、平成11年7月26日より11月25日まで発掘調査が行われた。その結果、河岸に形成される微高地から低湿地にかけての緩やかな斜面に形成された、弥生時代後期末の水田跡が検出された。水田は10000㎡にわたって検出され、畦に囲まれた不定形な区画が緩斜面に連続してゆくものであった。水田には、人が作業時に残したとおもわれる足跡が多数検出され、その観察から、夏季の除草作業時の足跡と考えられた。水田はその足跡が明瞭なうちに洪水によって一気に埋没した。その後も水田や畑地等として耕作されてきたようである。また、慶長伏見地震の痕跡として、液状化にともなう噴砂跡と小規模な地盤沈下跡が検出された。



津門稲荷町遺跡 古墳時代中期  
埴輪\*\*\*



津門稲荷町遺跡 古墳時代中期  
円筒埴輪



津門稲荷町遺跡 現在の状況

## 津門稲荷町遺跡

津門稲荷山古墳は、JR 西ノ宮駅東方 500m の国道 2 号線沿いにあった前方後円墳である。紅野芳雄が「考古小録」・「考古雑録」に、大正 3 年 12 月 25 日、津門稲荷町古墳と、稲荷山同様前方後円墳とつたえられる津門大塚古墳の痕跡とされる大塚池の記録を残している。大正 8 年 11 月 28 日の記述には、現 JR 線敷設時に土砂採取のため消滅した鬼塚の伝承を記録している。

昭和 52、53 年ころ、調査地南方の住宅建設工事時に円筒埴輪のほか、須恵器・土師器など多くの遺物が採集されている。

平成 6 年 10 月 4 日、共同住宅建設工事に先立ち試掘調査を実施したところ、円筒埴輪の破片が出土したため、建設事業者と協議の結果、10 月 17 日～11 月 2 日の期間、382 m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することになった。調査では、円筒埴輪のほか、弥生土器・須恵器・土師器・鉄斧などが出土したが、津門稲荷山古墳に関する遺構は検出されなかった。古墳破壊時に掘り返された土砂がかろうじて残っていたものとみられる。それら出土遺物のうち、円筒埴輪は 5 世紀、須恵器・土師器は 6～7 世紀の年代を示しており、一時期に形成された遺物群ではないことがわかる。また、比較的堅い砂礫層上から、弥生時代前期の土器片が 2 点出土している。土器片はあまり摩滅していないため、近隣に集落跡がある可能性がある。本遺跡を含めて、弥生時代前期の遺跡が、近接して 4 遺跡（津門稲荷町遺跡・北口町遺跡・甲風園遺跡・越水山遺跡）存在することがわかった。

## 展示を理解するための参考図書（一般歴史書は除く）

折井千枝子・坂井秀弥

1978 年「西宮市甲風園採集の弥生式土器」『関西学院考古』第 4 号  
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所（編）

1999 年『高畑町遺跡（Ⅰ）』（兵庫県文化財調査報告第 187 冊）

1999 年『高畑町遺跡（Ⅱ）』（兵庫県文化財調査報告第 182 冊）

2000 年『高畑町遺跡（Ⅲ）』（兵庫県文化財調査報告第 195 冊）

2001 年『西宮市高松町遺跡』（兵庫県文化財調査報告第 213 冊）

2002 年『西宮市北口町遺跡』（兵庫県文化財調査報告第 228 冊）

田岡香逸

1959 年「第 2 章（3）宮水」『西宮市史』第 1 巻

西宮市教育委員会（編）

2000 年『西宮市埋蔵文化財発掘調査報告書』（西宮市文化財資料第 44 号）

2001 年『西宮市埋蔵文化財 遺跡分布地図及び地名表（第 7 版）』（西宮市文化財資料第 45 号）

2002 年『津門稲荷町遺跡発掘調査報告書』（西宮市文化財資料第 46 号）

西宮市立郷土資料館（編）

1998 年『紅野芳雄「考古小録」～西宮考古学のパイオニア～』  
（西宮市立郷土資料館第 13 回特別展展示案内図録）

合田茂伸

1997 年「最近の発掘調査から」『西宮市立郷土資料館ニュース』第 22 号

## 展示資料所蔵者

\* 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

\*\* 関西学院大学考古学研究会

\*\*\* 財団法人辰馬考古資料館

## 写真提供

\* 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

## ご協力いただいた方々（敬称略）

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 財団法人辰馬考古資料館 関西学院大学考古学研究会

青木政幸 池田正男 岡田章一 種定淳介 甲斐昭光 柏原正民 中川渉 藤田淳 古川久雄 宮島太郎



第 17 回特別展 『西宮北口、発掘物語。』 展示案内図録  
平成 14 (2002) 年 8 月 3 日 発行

### 西宮市立郷土資料館

兵庫県西宮市川添町 15-26 〒 662-0944  
0798-33-1298  
[www.nishi.or.jp/~kyodo](http://www.nishi.or.jp/~kyodo)

